

## 鹿児島港本港区にてハイイロゴケグモを確認

金井 賢一<sup>1</sup>・福元 正範<sup>2</sup>・榊 俊輔<sup>2</sup>・入田 隼一<sup>2</sup>

### Observation of *Latrodectus hasselti* (Araneae, Theridiidae) in Kagoshima City North Bay Area

Kenichi KANAI<sup>1</sup>, Masanori FUKUMOTO<sup>2</sup>, Syunsuke SAKAKI<sup>2</sup>, and Junichi IRITA<sup>2</sup>

キーワード：外来種、ゴケグモ類、モニタリング、駆除

#### はじめに

日本において、セアカゴケグモが初めて確認されたのは、1995年11月：大阪でのことだった。当時はセンセーショナルに報道されたため、各地で調査が行われた。ハイイロゴケグモ（以下本種）などを加えて総称されるゴケグモ類は、現在までに5種が関東から八重山諸島で確認されている（以上清水ら、2012より抜粋）。

鹿児島県内では、2001年に本種が霧島市溝辺の鹿児島空港内で発見されたのを皮切りに、鹿児島市、指宿市、東串良町、志布志市、西之表市、屋久島町、奄美市、大和村、宇検村、龍郷町、瀬戸内町、喜界町、徳之島町、天城町、和泊町、与論町で記録されており（鹿児島県 HP, 2018）、その他の地域でも見つかる可能性がある。

2017年8月、九州大学：持続可能な社会のための決断科学センター准教授の細谷忠嗣氏から、十島航路を運航するフェリーとしま船上で、本種の卵のうを撮影したと報告を受け、写真で確認した。加えて、すでに発表済みの論文に掲載した2013年8月2日撮影の写真にも、同様に本種が写っていたとのことであった（細谷、2017）。この情報は細谷氏より十島村役場に報告され、鹿児島県環境林務部自然保護課と相談した上で、フェリーとしま乗組員によって殺虫剤処理をされたとのことである（自然保護課、私信）。

フェリーとしまは鹿児島港本港区南埠頭と奄美市名瀬とを往復している。2017年10月現在までの記録において本種は、鹿児島市では2001年フェリー発着所（地

区不明）、2008年鹿児島埠頭、喜入中名町、2011年鹿児島市喜入、2014年鹿児島市中央港新町で確認されている（鹿児島県 HP, 2018）。この記録一覧から漏れているが、他にも2015年鹿児島市南栄1丁目、2016年12月に鹿児島市下荒田の鹿児島大学水産学部キャンパス内でも発見され駆除された（鹿児島市 HP, 2017）。奄美市では2001年笠利町の奄美空港、名瀬大島フェリー発着所、2015年笠利町運動公園で確認されている（鹿児島県 HP, 2018）。フェリーとしま船上で見つかった本種が鹿児島市、奄美市どちら由来の個体か不明だが、鹿児島港本港区の湾岸地域では本種が広く定着している可能性もあり、調査することにした。

調査は鹿児島県立博物館のフィールドワーカー養成講座昆虫班のメンバーで行った。この講座は「植物、動物、昆虫、地質、天文の分野別に資料収集や調査研究などのフィールドワークを計画的に且つ継続的に行うことにより、専門的かつ授業に活かせる知識や技能を養成する。また、参加者が学校や地域で中核的存在として活躍することにより、自然に関する情報ネットワーク作りを推進する。」ことを目標に掲げ、2007年から継続している事業である。

#### 1. 調査方法

##### (1) 調査日時

2017年 9月10日 9:30 ~ 14:00

##### (2) 調査者

金井賢一、福元正範、榊 俊輔、入田隼一

##### (3) 調査範囲 (図1)

桜島フェリーターミナル →かごしま水族館 →北

1 鹿児島県立博物館：〒892-0853 鹿児島市城山町1-1

2 鹿児島県立博物館 フィールドワーカー養成講座

ふ頭旅客ターミナル →南ふ頭旅客ターミナル（図中記号 A） →住吉町海岸線通り →中央卸売市場前通り（図中記号 B） →城南町コンテナ置き場 →鹿児島港新港区（図中記号 C）

調査は全て徒歩で移動した。

#### (4) 確認・採集方法

本種は立体的な巣を張り、窓の棧の下やコンクリートブロックの穴の中、側溝の鉄製穴あき蓋（グレーチング）など、多少雨を避けられるすき間に潜んでいる。そのような箇所をのぞき込んで確認し、それらしいクモ類がいた場合にはピンセットなどで捕獲し、80%エタノールに入れて確認した。ゴケグモ類では腹部に砂時計型の模様を持つことが共通する特徴である（図2）。また、直径1cm程度の本種の卵のうには特異的なカギ状の突起があり、これで別種クモのそれと見分けられる（図3）。なお、内部に卵が入っているものと、すでにふ化したものが見られるが、今回はそれを区別していない。

なお、今回は見つけたものを全て採集するつもりで臨んだが、数が多い場合や届かない物陰などにも本種と思われる姿を確認した。特定外来種にも指定されていることから、今後調査する際には噴射式殺虫剤を携行し、採集できない場合には駆除することが必要であろう。

## 2. 結果

図1の調査範囲を徒歩で移動中に、見つからなかった区域には×を示した。今回本種が確認されたのは、大きく分けて（A）～（C）の3エリアである。

#### (A) 南ふ頭付近

ここでは3つの建物でハイイロゴケグモおよびその卵のうが発見された。

##### 1) としま旅客待合所

メス成虫1頭、卵のう6個採集

燃料を運搬すると思われるタンクのついたコンテナの凹状部分に、卵のうと成虫が別々に見られた（図4、5）。

##### 2) 種子島旅客待合所

メス成虫1頭目撃、卵のう2個採集

鉄製の建物の扉下部にある5 mmほどのすき間に、卵のうを見つけた（図6）。成虫はコンテナのすき間に逃げ込み、採集できなかった。

##### 3) みしま旅客待合所

メス成虫2頭採集、他多数目撃

グレーチングの下に多数の影を認めたが、外すことができずに採集できなかった（図7）。

#### (B) 中央卸売市場前通り

メス成虫4頭、オス成虫1頭採集

道路脇に車両規制用のものと思われるコンクリートブロックが多数並んでおり、この穴の中に見られた（図8）。ブロックが多数あり、全ての穴を確認できなかった。

#### (C) 鹿児島港新港区

メス成虫10頭、卵のう4個採集、他多数目撃

歩道にある水抜き穴（図9）から1個体採集した。この構造は道路沿いに多数あり、全てを確認できなかった。また、鹿児島港新港区の奄美・沖縄フェリーターミナル沿いの歩道柵では、ほぼ全ての連結部分の陰に卵のうや成虫を認めた（図10）。これも数が多すぎて、全て駆除できなかった。

## 3. 調査後の経過

調査後、鹿児島市環境局環境部環境保全課及び鹿児島県環境林務部自然保護課に、上記の内容を報告し、管轄である鹿児島地域振興局建設部が主体として駆除を行うこととなった。

## 4. 今後の対応について

2017年10月7日、小宝島に向かうフェリーとしま船上にて、本種と思われる個体を確認し（図11）、乗務員に駆除をお願いした。8月に駆除した際、生き残った個体があったと思われる。これは駆除作業の不備ではなく、本種は様々なすき間に入り込むので発見が難しく、また成虫を駆除しても卵のうが残っていれば再度発生してしまうからである。

本種を駆除するには様々な物陰などに、2～3ヶ月おきに複数回薬剤散布しなければならないだろう。仮に、今回発見された鹿児島港新港区ターミナルの個体群と、2016年12月に鹿児島市荒田で見つかった個体群とが同一ならば、広範囲において駆除作業を行う必要があるだろう。そのためにも状況の把握を行い、今後の対応を検討する必要がある。

## 謝辞

本研究を行うにあたり、細谷忠嗣氏には詳細な情報を提供をいただきました。鹿児島市環境局環境部環境

保全課及び鹿児島県環境林務部自然保護課には、調査の前後で相談に乗っていただき、対応を協議いただきました。ここに謝意を示します。

**引用文献**

細谷忠嗣 (2017) “フェリーとしま”の船上で採集されたゲンゴロウ科甲虫2種の記録. さやばねニューシリーズ(25) : 42-44.  
 鹿児島県 (2017) 県内におけるゴケグモ類の確認状況

(H29. 10現在). : [http://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/documents/28785\\_20180110112401-1.pdf](http://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/documents/28785_20180110112401-1.pdf)

鹿児島市 (2017) 特定外来生物「ハイイロゴケグモ」にご注意. : <https://www.city.kagoshima.lg.jp/kankyo/kankyo/hozen/haiirogokegumo.html>

清水裕行・金沢 至・西川喜朗 (2012) 毒グモ騒動の真実－セアカゴケグモの侵入と拡散－. 197pp. 全国農村教育協会, 東京.

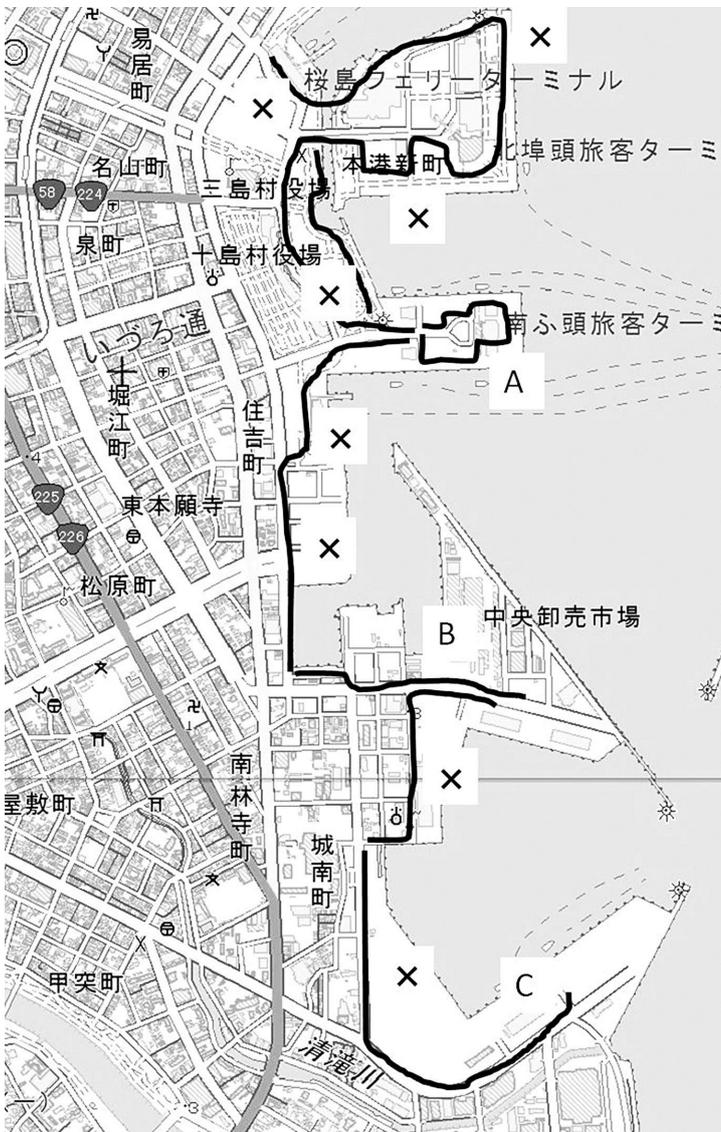


図1. 調査範囲 図中×は探しても見つからなかった地域, A, B, Cは本種を確認・採集した地域を示す。



図2. ハイイロゴケグモ腹部の砂時計模様



図3. 卵のうのカギ状突起 卵のうの直径は約1cm程度。



図4. 燃料用コンテナ



図5. 見つかった卵のうの位置  
(白い矢印の先)

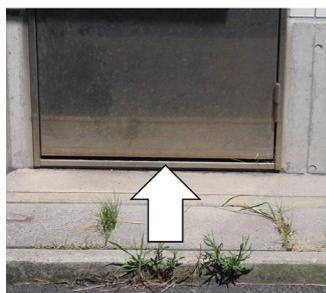


図6. 卵のうのあったドアの  
下部 (白い矢印の先)



図7. 多数のクモが見られた  
グレーチング箇所



図8. ハイロゴケグモが見られたブロックの穴  
(白い矢印の先)

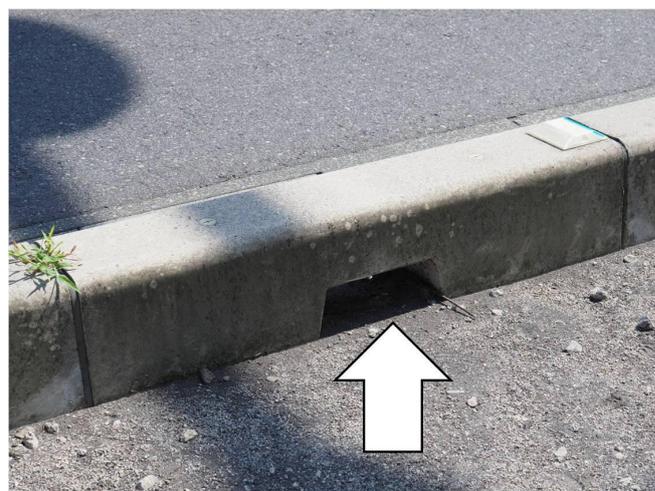


図9. ハイロゴケグモが見られた水抜き穴  
(白い矢印の先)



図10. 卵のうの見られた歩道柵の連結部分  
(白い矢印の先)



図11. フェリーとしま船上で見つけたハイロゴケグモ  
2017年10月7日撮影